



2020年度 研究デザイン

亀山市立亀山東小学校

教育大綱 基本方針—1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながらかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標

地域の中で生き生きと学び 豊かな心をもって よりよく生きる子どもの育成

研究主題 「わくわく なるほど すっきり」

～対話を通して、自分の考えを広げ深める子の育成～

1 研究主題設定の理由

(1) 子どもたちの実態

子どもたちは、素直で明るく、与えられた課題に対して一生懸命取り組むことができる。「ありがとう」や「ごめんなさい」を自分から素直に言ったり、困っている友だちを自然に手助けしたりできる子も多い。学習活動においても、目標やゴール、その道筋がはっきりしていると最後まで意欲的に取り組むことができる。

しかし、学習に対する意欲や基礎的な学習の定着については個人差が大きく、個別の支援を要する子も少なくない。また、一問一答の問題や単純な作業など、すべきことが明確な課題については、自分で黙々と取り組むことができるものの、他者とコミュニケーションを図りながら話し合ったり考え合ったりして考えや答えを創り上げていく力は十分ではない。そこで子ども自身が、対話や活動への目的意識をもち、自分たちで考え、話し合い、判断していく力をつけていく必要がある。

(2) これまでの取り組み

一昨年度まで、「目的に応じて読み、自分の考えを広げ深める学習指導の在り方」を研究主題に掲げ、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」について実践を繰り返しながら共通理解を深めてきた。

昨年度からは、現在の研究主題のもと研修を積み重ね、単元のねらいを明確化し、指導事項に適した言語活動を設定し、第一次で見通しを持たせる手立てを用意したことで、児童が自分なりの目的意識を持ち、意欲的・主体的に学習活動を進めるようになってきた。また、他者との対話を大切に授業づくりを進めたことで、他者と積極的に関わり、自分の考えを広げ深めようとする児童が増えてきた。対話を充実させるための手立てや、発達段階に合わせた「めざすべき対話の姿」についても、検討を重ね、教職員が共通理解をもって取り組みを進められるようになってきた。

しかし、対話に対する意欲の高まりはあるが、目的をもって自分の考えを広げ深めることのできる児童はまだまだ少なく、ペアやグループの組み方、児童が必然性を感じる発問や指示など、効果的な手立ての在り方について校内でさらに協議・検討する必要性を感じた。また、これらの言語活動を支える一人ひとりの語彙の量や質については個人差が大きく、全員が必要な語句や表現を身に付けたり活用したりできるまでにはかなりの時間がかかる。安心して互いの考えを伝え合える集団づくりについても、日常的に取り組んでいかななくてはならない。

2 研究主題について

「わくわく」・・・導入場面で「なぜ」「どうして」「このあとどうなるのかな」と子どもたちの思いや考えを引き出す。「やってみよう」「考えてみよう」と授業の見通しをもたせ、めあてを提示する。

「なるほど」・・・これまでの既習事項をいかし、自分なりの解決方法で考えや思いをもつ。互いの考えや思いを伝え合い、「なるほど」「そういうことか」「そんな考えもあるんだ」と考えや思いを広げ深めていく。より根拠のある確かな考えにしていく。

「すっきり」・・・わかったことを表現したり、文章や図などでまとめたりする。(ノートにまとめやふり返しを書く。類似問題を解く。など)「わかる」から「できる」へ。「すっきり」することで発展的な学習や次への意欲につなげていく。

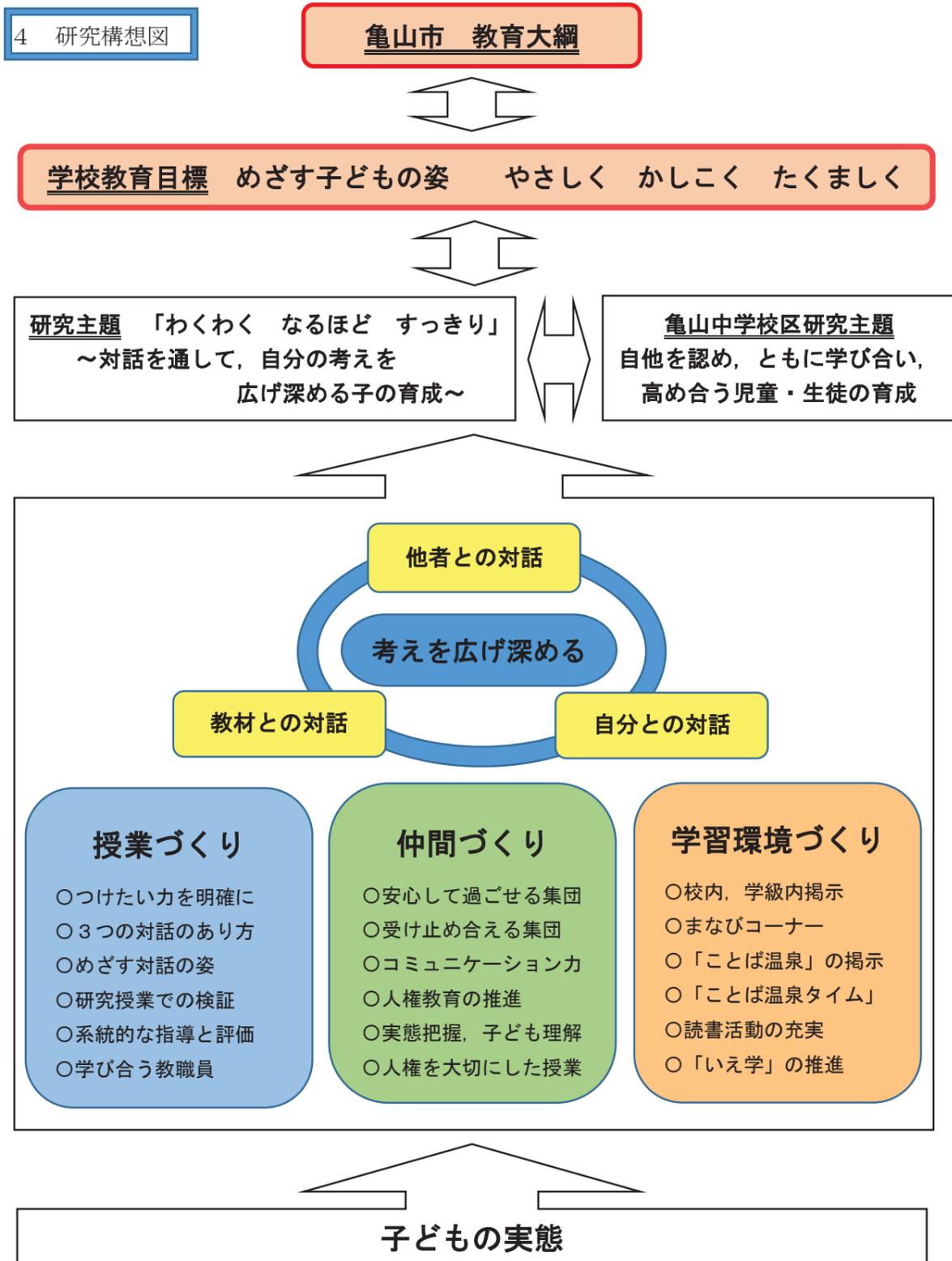
「対話を通して、自分の考えを広げ深める子の育成」

今年度も、子どもたちの実態やこれまでの取り組みをふまえ、対話を通して自分の考えを広げ深める子を育てるための授業づくりに重点を置き取り組んでいく。本校では「教材との対話」「自分との対話」「他者との対話」の3つの対話を大切に授業づくりに力を入れる。特に「他者との対話」では、対話の量や質の向上を目指し、対話するための必然性や目的を大切にし、より意欲的に他者と対話するなかで表現力・思考力・判断力を高めていく姿を追求していく。そのための手立てや工夫について、実践を積み重ねながら検証し、発達段階に合わせた対話のスタイルを確立していくことで着実に力が身につけていくと考える。対話の中で新たな考えに気づいたり、自分の考えの根拠を増やしたり、自分の考えをより確かなものにしたたりしながら、自分の考えを広げ深める子を育成していく。

3 研究領域

国語科 生活単元学習

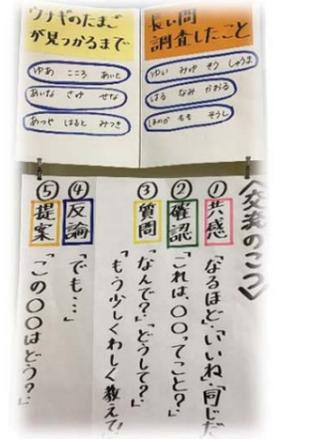
4 研究構想図



5 具体的な取り組みについて

(1) 授業づくり

- つけたい力を明確にし、3つの対話を意識した授業づくり
 - ・教材との出会いの工夫と組み合わせ
 - ・つけたい力を明確にし、見通しをもった単元計画と授業構成
 - ・つけたい力に応じた言語活動の設定
 - ・自分の考えをもつ場の設定
 - ・子どもの思考を促す発問と指示
 - ・効果的な思考ツールの活用
 - ・思考の手助けとなる構造的な板書
 - ・交流場面の見える化やグルーピングとタイミング
 - ・自分の学びや思考の変容が分かる振り返り
 - ・学びの足跡を残す効果的な掲示物
- 発達段階に合わせた対話のあり方やめざす子どもの姿の確立
- 研究授業を中心とした研修の推進
- 年間計画や指導事項配列表をもとにした指導と評価の一体化
- OJTを中心とした教職員が学び合う場の設定



(2) 仲間づくり

- 安心して過ごせる集団づくり
- 互いの考えや思いを受け止め合える学習集団づくり
- SST等を活用したコミュニケーション力の向上
- 人権教育の推進
 - ・人権宣言
 - ・人権集会
 - ・人権標語づくり
- 系統的な人権教育カリキュラムの見直しと活用
- 人権アンケート、QUアンケートの実施と分析
- 人権を大切に授業づくり



(3) 学習環境づくり

- 校内、学級内の掲示物の充実
- まなび（自主学習ノート）コーナーの活用と充実
- 習得させたい語彙「ことば温泉」の掲示と活用
- 「ことば温泉タイム」（週1回以上）の取り組みと授業時間での活用
- 読書活動の充実
- 「いえ学」の推進

